

県産材の需要と供給を一体的に創造しよう!!



■表紙写真 題名：切れた〜っ 撮影場所：浜松市 撮影者：木下 安雄氏（浜松市）

INDEX

本誌はホームページでも掲載しております。是非ご覧下さい。URL：<http://www.morito hito.jp>



事業体等取材 No.4

生産量が格段に増加した富士市森林組合の現状と課題



支部だより①（賀茂支部）

賀茂農林事務所治山課に配属されて



支部だより②（西部支部）

浜松地域林業成長産業化地域構想の現実に向けて



農林大学校だより No.6

農林大学校林業学科1年生の御紹介



県庁だより①（林業振興課）

なりゆき経営からビジョン経営へ



県庁だより②（環境ふれあい課）

自然ふれあい体験の促進に向けて
～指定管理者による自然体験プログラムの取組～



本部情報・イベント予定紹介

治山・林道等工事コンクールの結果報告

別冊折込

平成29年度しずおか森林写真コンクール入賞作品
平成29年度治山・林道等コンクール結果
平成29年度（一社）日本治山治水協会・日本林道協会主催の
治山林道コンクール受賞結果

事業取材

● No. 4

生産量が格段に増加した 富士市森林組合の現状と課題

富士市森林組合

近年、急激に素材生産量を増加させた富士市森林組合とその協力会社である(株)森林業、ミズキ林産(株)取材しました。

木材生産量倍増を掲げて

「富士南麓木材生産倍増プロジェクト」をご存知でしょうか？富士市域の木材生産体制を強化し、豊富な森林資源を持続的に有効活用していくことを目指した、官民一体で取り組んでいるプロジェクトです。平成24年度から始まり、本年度で第2期が終了。プロジェクト名に象徴される様、富士市域の生産量倍増を目標に掲げていましたが、すでに平成27年度時点、プロジェクト発足前年である平成23年度の生産量に対し2倍増を達成しています。中でも、富士市森林組合（渡井正孝組合長、佐々木洋司参事）は、主に富士市有林の施業をやっていた平成23年度の4,700㎡から、私有林にも施業を拡大した平成28年度には17,700㎡へと約4倍の増加を達成しました。

生産性向上への取り組み

富士市森林組合では生産量の増加に加え、生産性も大幅に向上しています。平成20年に3.8㎡/人日だった生産量は、平成28年には6.0㎡まで増えました。単に年間の生産日数が増えただけでなく、実質的にも生産性が向上しています。

その理由として①富士市森林組合の徹底した分業。組合が集約化と経営計画作成業務などに特化し、協力会社(13班30人)は生産に集中。②協力会社のほとんどが一人親方である中、17,700㎡の半分以上を担う(株)森林業は生産性向上を重視。森岩雄社長に秘訣を伺うと、平成7年頃のハーベスタ導入を手始めに、機械の大

型化・高性能化や保有台数増（現在19台）を進め、また会社全体の生産性向上を考え、作業班は編成せず各現場の進捗状況に応じて9人の作業員を振り分けているとのこと。そのため森社長は毎日の作業終了後に全ての現場を確認し、翌朝、現場ごとに作業員や機械の配分を指示されています。

さらに、③森林組合が現場状況と協力会社の能力に応じて仕事を分配し、生産量と生産性アップを図っている。④組合が発注時に共販所搬送か合板工場直送かを定めることで、協力会社の造材作業の生産性向上を図っていることがあげられます。

変わるC材、D材へのイメージ

富士市内のバイオマス発電所向けチップを、ミズキ林産(株)（森瑞樹社長）がC、D材から生産しています。このチップ生産の開始は富士市域の生産量増加に大きく貢献したと言えます。一昔前はC、D材は「出すだけ赤字」のイメージがありました。しかし、森林業の社長に伺うと、富士ヒノキは太さの割に伸びが無く、機械造材でC、D材が道に大量に溜まる。この大量のC、D材とミズキ林産の大型チップパーの処理能力との相乗効果でなんとか利益が生まれるとのこと。さらに森瑞樹社長は移動式チップパーを新規導入し林内処理によるコスト削減に挑戦しています。



▲ミズキ林産(株)のチップ工場



▲前列中：渡井組合長、
左：佐々木参事、右：森岩雄社長
後列左から：森瑞樹社長、本多主事補、
鈴木主事補、渡辺統括主幹

課題と今後の可能性

富士市域は、豊富な資源と主要製材所・チップ工場・共販所がほぼ10km四方の範囲に揃い、十数km先には大規模な合板工場とバイオマス発電所もあり、また県内有数の林道・作業道整備地域であることなどから非常に恵まれた伸び盛りの地域と言えます。

ただし、課題もあります。集約化が簡単な財産区有林等の整備は終わり、小規模所有者の山林が施業対象となることで、素材生産もまた労力的に手一杯な状況になりつつあるのです。さらに組合も若返り時期を迎え新規採用とその育成の課題もあります。その為、「生産倍増プロジェクト」の次期計画策定も課題解消と絡めて検討せねばならず、すんなりとは決まりません。今後の対策として、まず組合としては協力会社の年中稼働に向けた集約化と経営計画作成能力の強化、中期的には協力会社の能力増大と新たな協力会社を育てることなどを検討しています。これらの課題があるものの需要先の充実したこの地域の林業の発展は大いに期待でき、明るい未来が感じられました。



▲森林業 社長と本多主事補

支部 だより①

賀茂農林事務所治山課に 配属されて

賀茂農林事務所 治山課 栗原周佐



▲松崎町雲見海岸から望む富士山

新規採用されて新鮮な思いで初めての仕事を覚えつつ地域の魅力にも目を向ける生活を紹介頂きました。

賀茂地区

賀茂地区は、静岡県伊豆半島の南部、1市5町（下田市、東伊豆町、河津町、南伊豆町、松崎町、西伊豆町）で構成される自然豊かな地区であり、天城連山を中心に各市町が広がり、東は相模灘、西は駿河湾を臨み、市町ごとに特色ある魅力を有している。

当地区は、観光地として栄え、特に夏になると多くの観光客で賑わうところであり、風光明媚な海岸線や透明度の高い海、天城の清流を利用したわさびの栽培や数多くの温泉地が点在するなど、この地に赴任し、改めてその魅力を感じているところである。

半年間を振り返って

賀茂農林事務所治山課に新規採用で配属されて、半年間、様々なことを経験した。前半は、溪間工の設計・積算や治山パトロール等に携わり、治山の基礎を学んだ。8月に入ると

自分で設計した谷止工と本数調整伐の工事が始まり、9月現在までに所有者立会、工事の段階確認を行ったところである。業者や市町職員の方々と接する機会が増えていく中で、いよいよ監督員としての責任を感じているところであり、まだまだわからないことが多くあるので、積極的に現場に赴き、先輩や業者の方々からしっかりと学んでいきたいと考えている。

この半年を振り返って、特に印象に残っていることは、4月半ばに下田市を中心に襲った豪雨災害である。比較的小規模な災害ではあったものの新規採用職員对我来说は、大きな出来事であった。右も左もわからないまま上司や同僚の指導の下、業務を行ってきたが、治山課の役割というものを早々と認識することができ、その職務の重さを痛感した。1日でも早く仕事に慣れたいという思いにかられながらも、日々、新しいことを目の当たりにするばかりで、あっという間に半年間が過ぎていった。

静岡県林業職員として

大学生時代は応用生物学を専攻していたため、県職員となるまで治山に関して無縁の日々を送っていた私は、いざ仕事に携わってみると、災害を経験するなど、しっかりと勤めを果たすことができるのかと不安を抱いていた。その最中、林業職

員研修の際に講師の挨拶より「どうせやるなら、仕事が好きになれるように努力しよう」との言葉をいただき、それをきっかけに自分自身なりにどのようにすれば仕事が好きになれるかを考えてみた。私は、業務に早く慣れるとともに賀茂地区のことを良く知ること、仕事に対する思い入れが強くなるのではないかと考えた。今回、幸いにもこのような機会をいただいたため自分なりに感じている賀茂の魅力について1つ紹介する。

私が注目したのは、この夏行われた賀茂地区を含む伊豆半島の世界ジオパーク認定に向けた現地審査である。賀茂地区においては、下田市をはじめとして、地元の高校生によるジオサイトの紹介などの審査が行われた。当該地区は、海底火山群をルートとする地形を観察することができる世界的に見ても貴重な自然を有していることを筆頭に、地元の子供達が成長の過程でジオに触れることができる大変魅力的な場所である。静岡県の中でも貴重な自然と人とのつながりが強い地区であることを知り、私はよりいっそう本地区で治山事業を行うことの重要性を感じ、あわせて仕事に対する思い入れも強くなったと感じている。

今後、仕事に携わる中で苦しい時もあると思うが、業務に関する知識を学び、業務に精通することで面白さを感じることができるよう賀茂農林事務所治山課の一員として責任感を持って精進していきたい。



▲谷止工支障木伐採の所有者打ち合せ中の筆者（松崎町岩科北側砂里（ジャーリ）地内）

支部 だより②

浜松地域林業成長産業化地域構想の実現に向けて

浜松市 林業振興課



▲「Next Generation Next Vision ワーキング」の様子

市町村別の森林認証林面積全国一を誇る浜松市で関係者が力を合わせ「林業の成長産業化」に向け取り組む意気込みを紹介頂きました。

林野庁は、林業成長産業化の加速化を図るため、本年度から「林業成長産業化地域創出モデル事業」を開始しました。

浜松地域は当モデル事業の1地域に選定され、今後5年間、国から重点的に予算等の支援を受けながら、「浜松地域林業成長産業化地域構想」の実現に向けて、「素材生産」、「製材・加工」、「木材流通」の参画事業者とともに、素材生産量の拡大や木材の安定供給体制の確立、天竜材製品の生産・販売量の拡大、新規雇用を創出し、林業の成長産業化につなげていきます。

地域構想の施策

本構想は、10年後、20年後の将来の天竜林業及び木材産業や来るべきクリーンウッド社会を見据えて、“競争”と“協調”、“変化”と“挑戦”をテーマに、F S C 森林認証制度を核にして5点の柱を軸に施策を展開します。

本構想の実現に向けては、クリーンウッド社会に不可欠なF S C 認証製品のいわゆる出口対策（住宅、非住宅、まちづくり（土木・都市整備・観光等）、暮らし（デザイン家具、デザイン小物）等、多様な分野への木材製品の展開に向けた開発・生産・流通）が最も重要と位置づけ、外部の大手メーカー・他の指定都市・三遠南信地域等とも連携・協業した“大型木材会社に依存しない地域（都市部）モデル”として、浜松方式の「森林資源の循環利用+ONE」*による施策を展開していきます。

※森林資源の循環利用+ONE

一般的な森林資源の循環利用は、「植える」→「育てる」→「伐る」→「使う」であるが、浜松方式は「植える」→「育てる」→「伐る」→「創る」→「使う」。「使う」の前に「創る（イノベーション）」を加えている。

伐ったものを単に「使う」のではなく、創造的な視点で付加価値の高い木製品を開発・生産（創る）し、それを「使う」というもの。

目指すべき将来像

本市は、我が国におけるF S C 森林認証のトップランナーとして、F S C 認証製品の安定供給地域としての機能・存在感を高め、多様なF S C 認証製品の流通拡大を通じて、合法伐採木材の利用100%による“クリーンウッド社会”の実現を目指します。

併せて、地域が一体となった「森林資源の循環利用+ONE」を通じて、川上から川下までの事業者に多くの利益・雇用を生み出すとともに、森

林所有者へ利益を還元することのできる、“持続可能な林業・木材産業モデル”を確立します。

Next Generation Next Vision ワーキング

本構想では「次代の林業・木材産業を担う人材の育成」のひとつとして「Next Generation Next Vision ワーキング」を重点プロジェクトに掲げています。

本ワーキングは、10年、20年先の林業・木材産業の発展のために、次代を担う参画事業者の若手社員（20代～30代）によりワーキングチームを結成し、将来の当地域の在り方、進むべき方向性や取り組むべき施策を議論していくものです。若者らしい柔軟かつ新鮮な発想で、最先端技術の導入や抜本的な方針転換等を検討しながら、本地域構想の先となる「ネクストビジョン」に繋がる新たな事業を提案していきます。

【浜松地域林業成長産業化地域構想（概要）】

将来像	多様なFSC認証製品の流通拡大によるクリーンウッド社会の実現
施策の柱	<ul style="list-style-type: none"> 品質の高い原木の増産及び需要に応じた原木の安定供給 需要に応じた付加価値の高い天竜材製品の開発・生産 「地産地消」・「地産外銷」の2方向による天竜材の流通・販路の拡大 需要に応じた川上から川下までの最適なサプライチェーンの強化・再構築 次代の林業・木材産業を担う人材の育成
目標	<ul style="list-style-type: none"> 素材生産量：41,000m³(平成28年度)→ 61,500m³(平成33年度) 再造林面積(5年間累計)：120ha 製材品生産量：11,000m³(平成28年度)→ 14,600m³(平成33年度) 製品販売量：4,200m³(平成28年度)→ 6,300m³(平成33年度) 新規雇用人数(5年間累計)：70人
参画企業・団体	<ul style="list-style-type: none"> 素材生産：天竜森林組合 春野森林組合 引佐町森林組合 製材・加工：(株)フジイチ 双竜木材(株) (株)ヤマトウ製材所 天竜国産材事業協同組合 木材流通：(株)鈴三材木店 (株)マルホン 鹿島木材(株) 永田木材(株) その他：静岡県農林技術研究所森林・林業研究センター
事業期間	平成29年度～平成33年度

農林大学校林業学科1年生の御紹介

静岡県立農林大学校林業学科 主査 渥美咲子

こちらは農林大学校林業学科1年生です。今年、定員いっぱい、10人の元気な学生がここ磐田の本校で勉強しています。それでは、どのような学生がいるのか、インタビュー形式で紹介します。

質問① 月並みですが、まず、林業学科に入った動機を教えてください。

学生複数 「林業に興味を持ったから。」

学生複数 「自然が好きだから。」

学生F 「海が好きで、海の恋人である山を管理しようと思ったから。」

学生O 「少人数の学科のため、1人1人、しっかりと教えてもらえると思ったから。」

学生複数 「寮生活が楽しそうだったから。」

学生M 「体を動かすことが好きだから。」

学生M 「体育のサッカー。」
(・・・)

学生A 「球技大会。」
(・・・)

質問④ これまで勉強してきて、林業に対するイメージは変わりましたか？

学生複数 「以前は木を伐るイメージしか持っていなかったが、測樹や木材利用についても学んだことから、幅広く奥深い仕事だと思った。」

学生複数 「思っていたよりも危険な仕事だと思った。」

質問② 林業に興味を持った理由は何ですか？

学生M 「農業高校の授業で林業を知った。」

学生N 「部活の試合でこのはなアリーナや静岡県武道館を利用した際に、木材に興味を持った。」
(N君の答えは満点ですね。)

質問③ 4月からの授業で一番楽しかった授業は何ですか？

学生複数 「NPO法人大工村での上棟体験。」

学生複数 「治山パトロール。」

学生複数 「植栽実習。」

学生Y 「下刈り実習。」
(えっ？本当？)

質問⑤ 林業界に期待することや不安に思っていることは何ですか？

学生複数 「林業機械の進歩等による安全の確保。」

学生複数 「ある程度、不自由なく暮らしていける給料。」

学生I 「女性の雇用条件。」

学生S 「手軽で確実な虫対策グッズ。」
(・・・)

質問⑥ 夏休みにインターンシップ(基本5日間)を経験した学生もいますが、その感想は？

対象学生全員 「皆親切だった。」

学生K 「林業という仕事を知ることができた。」

学生T 「林業の中の事務職の仕事を知ることができた。」

学生M 「大変さが良く分かったが、もっと体験したかった。」

林業学科1年生では、以上のようなかわいらしい10人が、草を刈ったり、ヤマモモを採ったり、シイタケを栽培したり、そしてもちろん林業について一所懸命勉強したりしています。皆様、是非一度、学生の顔や様子を見においでください。



▲森林林業基礎講義の一コマ(治山パトロールに参加)

県庁 だより ①

なりゆき経営からビジョン経営へ

静岡県 林業振興課

本年度は15事業体の経営者が受講中のビジネス林業促進事業 トップマネジメント研修を紹介します。

意欲のある事業体の経営改革を支援する「ビジネス林業促進事業」の取組について紹介します。

今年度は、集合研修の新しい取組として、事業体の経営者を対象にした「トップマネジメント研修」を3回に渡り開催し、中小企業診断士の「木こりの女房」荒川美作保先生に、なりゆき経営からビジョン経営（計画経営）への転換方法を学びました。



▲静岡市内での集合研修の一コマ

なぜビジョン経営が必要なのでしょう

林業事業体は皆、資金や人材などの限られた経営資源を活用し、その中で最も良いパフォーマンスを出さなければなりません。

目まぐるしく変わる社会情勢や補助金制度など先行きの見通しが困難な時代ですが、わかっていることを手掛かりに、志を持って進むことで、何もしないよりは目指す姿に少しでも早く近づくことができます。

経営者には、2つの役割があります。組織に目標を与え、導く「リーダーシップ」と、決めたことを着実に実践する「マネジメント」です。従業員のためにも、今すぐビジョン経営を始めましょう。

現状分析

まずは現状分析です。決算書から

各種指標を算出、比較し、自社の実力を数字として「見える化」します。「見える化」することで従業員や関係者と共有できるようにします。

またSWOT分析から自社の強みや弱みを色々な視点から把握します。

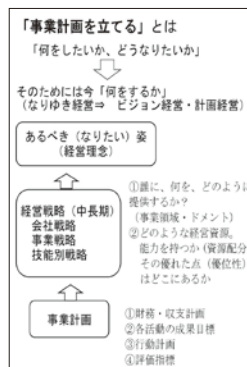
▼SWOT分析

	外部環境	内部環境
プラス要因	(機会) ものにする	(強み) 伸ばす
マイナス要因	(脅威) 戦う/回避	(弱み) 克服/諦める

経営理念と経営目標

経営理念はその組織の「人となり」や「志」を表します。理念はわかりやすく、従業員はもちろん顧客からも共感を得られるものであることが重要です。

経営目標は、こうありたいと思う理想の姿を自由に描きます。その理想と現状とのギャップが、今後解決すべき課題です。



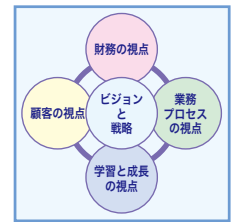
戦略を行動計画に結びつける

目標達成に向けて、有限な経営資源をどう配分するか、どう振る舞うか戦略を立てます。強みや機会を活かし、弱みや脅威を克服/回避するための方策を検討します。

そして戦略を実行に移すため、従業員1人1人の具体的な行動計画に落とし込んでいきます。行動計画は、各従業員が責任を持って管理できる

範囲で設定することが大切です。目標を実現するための戦略の視点 (例：バランススコアカード)

実行した戦略の進捗状況を把握するために、有効な数値指標をシンプルに設定し、PDCAサイクルで回していきます。



演習での戦略紹介

演習で立てた目標と戦略の一部を紹介します。

○A社

目標：5年後に給料を450万円にする。
・純利益15パーセントアップ。収益構造を変化させ、新規事業拡大する。

○B森林組合

目標：産地として生き残る。

・間伐から皆伐へウェイト移動させる。利益を確保するために生産性と稼働率向上。

・零細な所有者にも利用されるようになる。森と深く関わり、収益、生き甲斐を感じられるようにするために、林産物や観光資源としての森林利用を組合が集約化する。

全員で実践する組織づくり

行動計画を従業員全員が本気で取り組むためにはどうしたらよいでしょうか。

第1には一人ひとりの自主性と人間性を尊重し、失敗を許容する組織風土が重要です。組織の成長＝人材の成長ですから、チャレンジする人を尊重するとともに、仲間がやりやすい空気を作ることが必要です。

また、職階にふさわしい権限を委譲し、適切なタイミングで助言指導できるよう、コミュニケーションには情報伝達の仕組み作りが必要です。経営者が求めている事をあの手この手で染み込むように伝えましょう。

さあ実践！

次は、実践あるのみ。

県は、引き続き事業体の経営改革の取組を支援していきます。いつでも林業振興課へご相談ください。

県庁 だより②

自然ふれあい体験の促進に向けて ～指定管理者による自然体験プログラムの取組～

静岡県 環境ふれあい課

県立森林公園などでの指定管理者制度の導入効果について紹介頂きました。

はじめに

県では県民が自然を身近に感じ自然とふれあう機会を創出するため、県内9箇所の「自然ふれあい施設」の管理をしています。

そのうち「県立森林公園」、「県立森林公園森の家」、「県民の森」の3施設では、民間のノウハウを活かした運営により利用者の増加や満足度向上を図るため、平成18年度から指定管理者制度を導入しています。

実際、施設利用者の満足度調査の結果は、どの施設も5点満点中4点以上をキープしており、利用者満足度の高い施設といえます。

今年度から第四期（平成29年度～平成33年度）の新たな指定期間が始まり、指定管理者による今後の事業実施の効果を期待するところです。

◆これまでの取組と今後の計画

各施設では、県民の自然ふれあい体験を促進するため、指定管理者が自然観察会や木工体験教室などの自然体験プログラムを開催していますので、御紹介します。

【県民の森】

県民の森は、静岡市葵区の井川湖、南アルプスに囲まれたキャンプ場及び宿泊施設です。

指定管理者の井川森林組合は、子供を対象とした自然体験キャンプやとうもろこし狩りイベントのほか、近年はバーベキューと婚活を組み合わせ合わせた山コンや、森ヨガイベントなどを開催しています。

井川森林組合の職員が、森林インストラクターの知識を活かし企画の

充実に努めています。今後は近隣施設と連携したイベントを企画しているところです。



▲山コンの参加者たち

【県立森林公園】

浜松市浜北区の県立森林公園では、指定管理者の一般社団法人フォレメンテあかまつが、年間60以上の自然体験プログラムや木工体験教室を開催しており、平成28年度は約2,900人の参加がありました。

近年では、幼児向けのプログラムとして「お母さんと一緒に森遊び」を開催しており、好評を得ているところです。

今年度は、初めての取組として、指定管理者と地元団体等が協力して開催する大型イベント「森〇（もりまる）」を9月に開催しました。自然観察会や、クラフト体験のほか、5店舗以上の雑貨店等が立ち並び、スタンプラリーをしながら楽しく参加できるイベントで、多くの人で賑わいました。



▲「お母さんと一緒に森遊び」の参加者が園内を散策する様子



▲「森のムツレ教室」でムツレさんが森の案内をする様子

【県立森林公園森の家】

同じく県立森林公園にある「森の家」は、レストランや研修棟、宿泊棟や多目的ホールを備えた施設です。観光目的のみならず、企業の研修など様々な用途で利用されています。

指定管理者の㈱ヤタローは、「癒し」と「学び」をコンセプトに、自然とのふれあい体験として幼児の自然環境教育プログラムである「森のムツレ教室」、ヨガやピラティス等の健康プログラムなど多様なプログラムを開催しています。なかでもホテル観賞は普段なかなか見ることのでき大変好評で、昨年度は262名の参加がありました。

新たな取組として、今年度はアウトドア用品メーカーとの施設提携契約をし、今後共催イベントを実施する予定です。また、レストランのメニュー開発なども予定していますので、楽しみにしてください。



▲満月のヨガ講座

◆おわりに

自然ふれあい施設をより魅力的にしていくためには、指定管理者による自然体験プログラムの実施は欠かせません。今後も指定管理者の創意工夫が、魅力的なプログラムにつながるよう、県としても支援を行ってまいります。

皆様ぜひ、県民の森、県立森林公園へお越しください

本 部 報

29年度の治山・林道等の 優秀工事が決まりました

静岡県山林協会では、森林の持つ多面的な機能が適切に発揮されるよう、治山・林道・森林整備事業の中で、施工の優れた工事や木材を積極

的に工夫して使用した施工者等を顕彰し、森林土木技術者の育成と施工者の技術向上を図る「治山・林道等コンクール」を毎年実施しています。

今年度も各農林事務所から優れた工事等について推薦をいただき、審査の結果、下記の工事に対し山林協会会長賞を授与することとし、10月26日(木)に表彰式を行いました。

表彰された工事は急峻な地形や厳しい気象環境など施工条件が悪い場所で、いずれも作業員の安全確保に十分配慮しながら、高い技術力を発揮された工事であり、工事関係者の皆様の日頃の御努力の成果が表れていることが高く評価されました。

No.	受賞者	施工地	工事名
1	東海建設 株式会社	賀茂郡河津町大鍋	28 治山（緊急予防）峰畑山工事
2	斉藤土木 株式会社	賀茂郡河津町梨本	28 治山（緊急予防）宮ノ上工事
3	有限会社 国本組	賀茂郡西伊豆町田子	28 治山（予防）谷戸洞工事
4	中豆建設 株式会社	伊豆市堀切	28 治山（予防）本洞工事
5	株式会社 室伏組	駿東郡小山町柳島	28 治山（復旧）峯坂工事
6	佐野藤建設 株式会社	富士宮市猪之頭	28 治山（復旧）内野工事
7	ライト工業 株式会社 静岡営業所	静岡市清水区興津東町	27 治山（復旧）本城工事
8	株式会社 ヤマエイ長島建設	静岡市葵区井川	27 治山（緊急）柳山工事
9	株式会社 和泉	焼津市花沢	28 県単治山（県営）廻沢（27繰越）工事
10	原田造園 株式会社	御前崎市白羽	27 治山（防災林造成）白羽工事
11	株式会社 山田	掛川市久居島	28 県単治山（県営）横根沢工事
12	日本エルダルト 株式会社	天竜区春野町堀之内	28 治山（地すべり）代古根工事
13	株式会社 天竜アキヤマ	天竜市龍山村下平山	28 治山（水源再生）大沢工事
14	金原建設 株式会社	掛川市沖之須	28 治山（防災林造成）沖之須工事
15	株式会社 水永建設	静岡市葵区腰越	28 道整備推進交付金権七峠線1工区工事
16	株式会社 梶山組	榛原郡川根本町下泉	28 道整備推進交付金本城下泉線2工区工事
17	大沼建設 株式会社	周智郡森町嵯塚	27 森林基幹道大尾大日山線工事（繰越）
18	天龍土建工業 株式会社	天竜区石神	27 山村道路網整備観音山1線2工区工事
19	天龍土建工業 株式会社	天竜区春野町豊岡	27 道整備推進交付金大久保線2工区工事

このうち特に優れた「27治山（復旧）本城工事」（ライト工業株式会社静岡営業所 施工）、「28治山（防災林造成）沖之須工事」（金原建設株式会社 施工）及び「28道整備推進交付金

本城下泉線2工区工事」（株式会社梶山組 施工）の3件を、一般社団法人日本治山治水協会・日本林道協会が主催する治山林道コンクールへ推薦したところ、ライト工業株式会社

静岡営業所様と金原建設株式会社様が林野庁長官賞を、また株式会社梶山組様が日本林道協会会長賞を受賞されました。

イベント 予定紹介

「未来志向の林業・木材産業のサプライチェーンのあるべき姿」

講 師：椎野 潤（椎野ロジスティクス研究所長）

日 時：11月28日(火) 15時～17時

場 所：ホテル アソシア静岡4階「カトレア」

静岡市葵区黒金町56 JR静岡駅北口の東側

問合せ先：静岡県林業会議所 054-252-4857

講演会
参加者募集

「森と人」 公益社団法人 静岡県山林協会
編集・発行 静岡市葵区追手町9-6 県庁西館9F
TEL:054-255-4488/FAX:054-255-4489